

はじめに——地方私立大学おこしの歩み

私は、七十五歳の誕生日を迎えた平成二十三年（二〇一一）に、一世紀の四分の三に当たる長き歳月を生きてきたのを一区切りと思い、わが歩み来し道を振り返って、『岐点の軌跡』と題する拙著を勉強出版から刊行した。その書の終わりの方、第十五章「公職退任後の時代」の9「主要業績のまとめ」（四六五ページ以下）には、

昨年、つまり平成二十二年（二〇一〇）の夏ころから、来年は七十五歳になる、生きてきた人生を一度まとめてみようかと考えるようになった。まだ、仕事を完全にリタイヤしたわけではない。毎日出勤する義務のある仕事は退いたが、まだ次のような委員や役職を続けているし、著作予定も詰まっている。

と述べ、十二の委員や役職を上げ、以下六ページにわたって、主要業績の概要を載せたのだった。これら十二の役職や委員の中には、現在もまだ継続しているものがたくさんあるが、ともかく

後期高齢者に仲間入りしたことでもあるし、もう大きな岐点に立つことはないだろうと思っ
た。

しかし、それ以後も、大きな岐点はいくつも現われた。その時々には、自分なりに慎重に考
え、懸命に選択することに精一杯で、その「軌跡」を辿ってみるなどということ、まったく考
えなかったが、新潟産業大学の学長を退任し、新潟県柏崎市と茨城県取手市との二重生活から解
放され、時間的に若干の余裕が増え、過去を客観的に振り返ることができるようになって、『岐
点の軌跡』の続篇を綴ってみようかという元気が出てきた。

というよりも、新潟産業大学学長在任中の五年間は、わが人生最大において、最も重い時期になっ
てしまった。新潟産業大学の学長就任を決断した時が、わが人生最大の分岐点とも言うことがで
きる時になったのだ。公立大学法人化は実現しなかったが、私の考えは間違っていない。だから、全く後悔はしていない。新潟産業大学は公立大学法人化しなければならない。現在の財
政状況だけを見てはだめだ。もっと高い視点に立つて、もっと広い視野から考えなければなら
ない。たくさんの有識者、有力者、一般市民の方々が賛同し支援してくださった。いつか公立
大学法人化する日が必ず来るだろう。公立大学法人化しなければ、大学にも市にも将来がない。
柏崎市は、私を高校卒業まで育ててくれた大切なふるさとだ。私は、いつもふるさとのことを
想い、ふるさとを誰よりも愛していると思っっている。そのふるさとが、少子化と若者の大都市流
出によって人口減少を起こし、やがて衰退あるいは消滅してしまう危機にあるという。そういう
ことを知り、学生数の減少している新潟産業大学を再興して、ふるさと柏崎にかつての賑わいを

取り戻したいと考え、老骨に鞭打って、ふるさとに戻ることを決意したのだった。
ふるさとにおける努力のこと、新潟産業大学における模索の経緯は、やはり、記録に残しておきたい。そう考えて執筆を始めたのは平成三十年（二〇一八）八月十五日のことだった。

平成三十年八月十五日

北原保雄

SAMPLE

序章 平成二十二年(二〇一一)

- 1—『岐点の軌跡』正篇刊行時のいきさつ 001
 2—勤務の状況 002
 3—公益財団法人日本ユニセフ協会の顧問に就任 003
 4—社団法人日本教育会の公益社団法人化 004
 5—税務署からの呼び出し 005
 6—長男博雄の入院 006

第一章 平成二十四年(二〇二二)

- 1—馬淵和夫先生を偲ぶ会 008
 2—兄信範の米寿の祝い 011
 3—結婚五十周年金婚 016
 4—健康のために散歩を励行 018
 5—『明鏡国語辞典』中国語版の刊行 019
 6—叙勲の申請 024
 7—平成二十四年春の叙勲で瑞宝重光章を受章 030
 8—瑞宝重光章受章の祝賀会 033
 9—北原保雄先生の受章をお祝いする会 037
 10—大修館書店編集部長岡田耕二氏逝去 038
 11—愛犬リスターの永眠 039
 12—鎮守金刀比羅神社の鳥居再建に寄付 044
 13—岩崎庸男氏逝去 045
 14—立山黒部アルペンルート旅行 046
 15—新潟産業大学学長候補承諾まで 048
 16—新潟産業大学学長に選出される 050

第二章 平成二十五年（二〇一三）

- 17 理事会における挨拶 057
- 18 学長就任予定の記者会見 060
- 1 取手市の叙勲受章者祝賀会 069
- 2 柏崎市の宿舍決定 070
- 3 日本テレビ「世界一受けたい授業」の収録と放映 071
- 4 日本学生支援機構OB会の会長になる 072
- 5 新住居に初宿泊と記者会見 074
- 6 新潟産業大学学長に就任 075
- 7 新潟産業大学入学式 077
- 8 「柏崎市勢要覧二〇一三」に載る 083
- 9 新潟日報に記事連続掲載 087
- 10 ギャラリー三余堂の開館 088
- 11 柏崎リーダー塾運営協議会設立 091
- 12 県下の高等学校を訪問 095
- 13 台湾の明道大学との大学間交流協定締結 096
- 14 「かしわざき大使」に委嘱される 097
- 15 地元在住の甥姪による歓迎祝賀会 100
- 16 各種講演会で多忙 101
- 17 第三十六回全国良寛会柏崎大会で講演 103
- 18 久しぶりの閩魔市 106
- 19 新潟日報にコラム連載 107
- 20 北原学長を囲む会 108
- 21 柏崎日報「柏崎抄」の記事 116
- 22 海の大花火大会と田尻中学校第五同期会 118
- 23 貞子姉大怪我をして入院する 120
- 24 田尻中学校第四期生同期会に出席 恩師山田仁先生のこと 122
- 25 キーン・センター柏崎開館の前後 124
- 26 地元で柏崎談笑会を開催 130
- 27 広報かしわざき掲載の「新春対談」のための対談 132
- 28 常盤高校創立一一〇年記念で講演する 136
- 29 新潟産業大学の忘年会と附属高校の忘年会 137
- 19 新聞各紙の報道 066
- 20 柏崎市文化会館アルフォーレ開館記念で講演 067

第三章 平成二十六年（二〇一四）

- 1 | 平成二十六年仕事始め 139
- 2 | 母校柏崎高校のPTA研修会で講演と対談 140
- 3 | 平成二十六年における講演 143
- 4 | JASSO 歴代理事長の座談会 144
- 5 | 『日本語の助動詞——二つの「なり」の物語——』の刊行 145
- 6 | 平成二十六年度第一回教授会での挨拶 147
- 7 | 副学長、学長補佐を任命し、学長副学長等会議を設置する 149
- 8 | FMピッカラで、毎週一回「北原保雄のよもやま話」の放送を始める 152
- 9 | モンゴル文化教育大学と交流基本協定を締結 154
- 10 | 中国内モンゴル自治区を訪問 155
- 11 | 東電ベルナテリオに遊ぶ 159
- 12 | ぎおん柏崎まつり、たる仁和賀に参加、海の大花火大会を観覧する 160
- 13 | 学副等会議の合宿 161
- 14 | 重要無形民俗文化財「綾子舞」の現地公開を観る 163
- 15 | 狐の夜祭りを観る 165
- 16 | 筑波大学第一期生全学同窓の集いに招待される 167
- 17 | 柏崎リトルシニアリーグの卒団式に出席する 168
- 18 | 従来の人理事会の慣行 171
- 19 | 大学改革に着手 172
- 20 | 産大の将来構想について 173
- 21 | 市立化の交渉を始める 178
- 22 | 公立大学法人化に向かって 179
- 23 | 公立大学法人化の要望書提出まで 181
- 24 | 要望書を柏崎市長に提出 183
- 25 | 記者発表とマスコミの反響 186
- 26 | 年末最後の教授会における挨拶 192
- 27 | 「柏新時報」紙による一年の総括 194
- 28 | 年末最後の学副等会議において大学改革について訴える 195

第四章 平成二十七年（二〇二五）

- 1 平成二十七年の仕事始め 忘れられない新年宴会 197
- 2 脳梗塞で緊急入院 200
- 3 病院生活を送る 202
- 4 全ての予定をキャンセル 206
- 5 「今、なぜ、シティセールスカ」 210
- 6 卒業式に学長式辞を代読してもらう 215
- 7 久しぶり産大に出勤 入学式と新年度初教授会 219
- 8 大学の将来構想について学副等会議で審議 224
- 9 公立化についての調査報告を受けて市長と懇談 228
- 10 「大学の改革について」を市長に提出 232
- 11 「大学の改革について」全教職員集会を開催 235
- 12 市議会での報告前に市長と会談 239
- 13 学長の新辞令受理 244
- 14 平成二十七年新潟県大学ガイダンスセミナー開催 244
- 15 筑波大学オーラルヒストリー事業のための録音 248
- 16 柏崎市長への懇願の書簡 250
- 17 市の補助事業に対する私案 260
- 18 公立大学法人化実現のために地方紙に緊急寄稿 264
- 19 法人理事会改革への提案 265
- 20 広川俊男副学長の入院 268
- 21 新潟産業大学の創設 270
- 22 全国教育大会で佐賀市、長崎市へ 274
- 23 柏崎市に朔太郎の記念碑を建立 275
- 24 中央教育審議会専門委員に任命され、新学習指導
の在り方の審議をする 276
- 25 平成二十七年の終わりに 277

第五章 平成二十八年（二〇二六）

- 1 家族で新年の食事会 279
- 2 高額の産大基金を調達 280
- 3 経済学部長を選考 281
- 4 四月の学長副学長等会議 283
- 5 五月の学長副学長等会議 285
- 6 五月二回目の学長副学長等会議 288
- 7 平成三十二年度版「小学校国語教科書」編集発足の
会 292

第六章 平成二十九年（二〇一七）

- 8―「新潟産業大学の公立大学法人化に向けて」を柏崎市長に提出 294
- 9―柏崎市議会の「全員協議会」において「新潟産業大学の公立大学法人化」について説明 296
- 10―マスコミの報道 304
- 11―赤倉温泉に遊ぶ 308
- 12―柏崎高校第七回卒同期会（傘寿）に参加 308
- 13―「モンゴル文化研究所」開所式 310
- 14―市議会議員との個別の意見交換 312
- 15―八十歳の誕生日を迎える 312
- 16―義姉井上和子氏の逝去 313
- 17―平成二十九年以降について 314
- 18―地元の有力者や地元に住む産大同窓生に残暑見舞いを郵送 317
- 19―台湾の唯心聖教学院の学長、副学長が取手に来訪 319
- 20―第四十一回全国教育大会が新潟市で開催 319
- 21―広川俊男氏が副学長を辞任 320
- 22―桜井雅浩柏崎市新市長誕生 321
- 23―学校法人柏専学院の理事長に就任 324
- 24―十二月の学長副学長等会議 326
- 9―平成二十九年最新しい出発に当たって 356
- 10―市議会の「全員協議会」に出席 359
- 11―平成三十三年度版「中学校国語教科書」編集発足の会 362
- 12―学長二期目最初の学長副学長等会議 363
- 13―桜井柏崎市長がコンサルタントと来学 369
- 14―六月の学長副学長等会議 370
- 15―大学改革案を練る 374
- 16―七月の学長副学長等会議 377
- 1―元旦は台湾で迎える 329
- 2―大学入試センター試験 331
- 3―産大学長二期目統投への決断 332
- 4―産大学長二期目に就任 336
- 5―卒業式における学長式辞が問題になる 342
- 6―市内有力者による意見公告が問題になる 345
- 7―平成二十八年度最後の教授会にメッセージ 352
- 8―柏専学院理事長を退任、新潟産業大学長二期目に就任 355

第七章 平成三十年（二〇一八）

- 17 星野総括副学長への書簡 380
- 18 運転免許の返納を申請する 384
- 19 新潟県私学教育研修会で講演 385
- 20 台湾の唯心聖教学院との交流基本協定書に調印 386
- 21 『じっくりこない日本語』（小学館新書）を刊行 387
- 22 広川俊男氏逝去 388
- 23 九月の学長副学長等会議 389
- 24 平成二十九年九月の教授会 394
- 25 エデュースによる「公立大学法人化可能性調査」の結果報告 397
- 26 エデュースによる調査結果の報告を受けて、全学集会を開催する 399
- 27 エデュースの報告を受けて、臨時の学長副学長等会議を開催 402
- 28 認証機関による大学評価受審 405
- 29 消化器関係の健康診断 406
- 30 十月の学長副学長等会議 408
- 31 桜井柏崎市長への書簡 411
- 32 「『新潟産業大学公立大学法人化可能性調査報告』を受けて」を柏崎市長に提出 418
- 33 十一月の教授会 419
- 34 柏崎研究所主催の「第一回柏崎学シンポジウム」を開催 421
- 35 向島成美氏逝去 423
- 36 新潟産業大学創立七十周年記念式典・記念講演会を開催 424
- 37 産大学長辞任の相談 429
- 38 公立大学法人化要望の署名運動 435
- 39 十二月の学長副学長等会議 436
- 40 十二月の教授会 439
- 41 平成二十九年の忘年会 442
- 42 産大学長辞任願を理事長に提出 443
- 4 大相撲一月場所を観戦 451
- 5 理事会で産大学長の辞任が承認される 452
- 6 柏崎市長に「魅力ある大学づくりの事業計画書」 449
- 1 平成三十年の年始 446
- 2 一月の学長副学長等会議 447
- 3 一月の教授会 449

- を提出 454
- 7―教授会で学長辞任の挨拶 456
- 8―署名活動の結果を市長に提出 459
- 9―関係各位に学長退任の挨拶状を出す 461
- 10―公立大学法人化認められず 464
- 11―産大最後の学長副学長等会議 469
- 12―産大最後の教授会 477
- 13―産大退任の送別会 480
- 14―退任に当たっての新聞記事 481
- 15―産大最後の卒業式 482
- 16―次姉松崎サワヨ逝去 485
- 17―学士会で講演 486
- 18―山田仁、高橋保両先生による送別会 487
- 19―久し振りに実家へ 488
- 20―ホテル・シーポルトで思い出の夜 489
- 21―二十七日、妻が先に帰る 490
- 22―二十八日、産大最後の勤務 491
- 23―二十九日、産大離任の日 491
- 24―産大校長の離任を惜しむ記事 492
- 25―「桜を見る会」に招待される 493
- 26―退職慰労会と誕生会 494
- 27―義姉フミ子さん逝去 495
- 28―北京大学創立一二〇周年記念国際学術シンポジウムに招待される 496
- 29―大修館書店高校国語教科書編集発足式 498
- 30―能「柏崎」と綾子舞が国立能楽堂で同時上演 500
- 31―新潟産業大学名誉学長の称号が授与される 501
- 32―筑波大学名誉教授内山知也氏逝去 510
- 33―大修館書店の「創立一〇〇周年記念感謝の会」に招待される 511
- 34―「文化庁創立五十周年記念表彰」で表彰される 512
- 35―第四十三回全国教育大会奈良大会が開催される 513
- 36―「産大校友会本部定期大会」に招待される 514
- 37―「広川俊男メモリアルセレモニー」に出席 515
- 38―筑波技術大学の学長を選出 517
- 39―筑波大学旧学長副学長等による忘年会 518
- 40―株価が急落する 518

第八章 平成三十一年（二〇一九）

- 1 平成年号最後の元旦 519
- 2 「萬狂言冬公演」を観覧する 520
- 3 大相撲一月場所を観戦 520
- 4 筑波技術大学の「感謝の会」に招かれる 521
- 5 スマホに買い替える 521
- 6 新元号が発表される 523
- 7 ノートルダム大聖堂が炎上 524
- 8 新潟産大星野学長と学校法人柏専学院梅比良理事長が取手に来訪 526

第九章 令和元年（二〇一九）

- 1 新天皇即位 527
- 2 筑波山旅行 528
- 3 ミス子姉見舞い 528
- 4 柏崎市ソフィアセンターに記念文庫を設置することが決定 529
- 5 高橋保先生への寄稿誌発刊記念懇親会に出席 530
- 6 山田、高橋両先生等と昼食会 532
- 7 貞子姉の逝去 533
- 8 誕生日を迎える 534

あとがき 536

略年譜 540

出講・学会等一覧 569

非常勤講師・集中講義等（就任順）／所属学会／各種委員等（就任順）

主要著作一覧 571